

お念仏と共に ～ 如来に念じられて生きていこう ～

謹賀新年



如来さまの元旦

去年今年変わらず昇る朝日かな

昨年は、突然に出現した新型コロナウイルスに、世界中が一喜一憂した年であった。突然の学校閉鎖。リモートワークに移動の自粛。入学式や卒業式、結婚式やお葬式なども自粛、自粛でやってきたが、第二波、第三波と、感染拡大がおさまる気配がない。挨拶言葉がコロナになった日々が続くと、嫌でも憂いは深まりゆくばかりであったが、そうした中で、否、そんな中であつたからこそ、善き人の言葉が響いてきた。

如来まします。案ずるにおよばず。 (清沢満之)

この言葉は私の心のこわばりを和らげ、平常心に戻してくださいました。諸行無常が世の常(道理)であれば、健康の時もあれば病気の時もある。健康である時は有り難く遊び、病気になるれば、それをしずかに引き受けていくばかりである。

清澤先生は、

我らの大迷は如来を知らざるにあり。

とも教えて下さっている。全くその通りだ。私たちをその根底から生かしてやまぬ如来のましますことに気づかぬうちは、病気を怖れる心から自由になれない。

幽霊は怖れれば怖れるほど大きくなり、逃げれば逃げるほど追いかけてくる。コロナも怖れすぎると、私の心を囚えてやまぬ妖怪となってしまうであろう。

新型コロナウイルスは今しばらく続きそう。病気のことは医者に任せて、私たちは心がコロナにかかってしまわないようにすることだ。では、どうしたら、いいか。その鍵は、

如来まします。案ずるにおよばず。

の一言の中にある。

十月二十八日「御名を聞く会」法話

「いのちのコール」川島弘之師

川島先生は昭和18年生まれの77歳。若い頃から生きることにむなしさを感じ、放浪生活をしていた時、奇しくも石川県で親鸞聖人の教えに生きる人々に出遇われました。そこで生きる意欲を回復された先生は茨城県に戻り、高校の倫理社会の先生とられました。

母の死と、二つの問い

12年前に亡くなった母の姿を通して「人は死んでどこに行くのか」「先立った者と残された者はどこで再び会うことができるのか」という二つの問いが私の中に生まれ



その問いに答えてくれたのは宮森美知子さんという14歳の少女が残した遺言でした。

美知子の遺言

「母ちゃん、母ちゃん、わたし死んでも泣くまっしやるな」「わたし死んでも、体無いが

になっても魂は死ななげや。そんでいつまでもいつまでも、ナンナさんのお心の中に生かされていくのだから、いつも母ちゃんと一緒にいるんだから、泣くまっしやるな」

いのちのコール

人は死んでナンナさんのお心の中に生かされていく、それは別の言葉で表現すれば、生死一如、身土一如のいのちに帰るといふことです。

しかし、私たちの自我意識は、常にその一如の事実を背き、一如を対象化しようとし、それを信国先生は「一如の痛み」と言われました。私たちがいろいろな苦悩や不安をかかえ、孤独やむなしさを感じるの、実はその一如の破れによるものであり、そ

こにすきま風が入るからなのです。その「一如の痛み」は、一如の事実を背いて生きる私たちに、「一如に帰れ」と呼びかけています。それが「いのちのコール」なのです。

ボールの一撃

昨年暮れ、アポ電強盗という大変な事件に遭遇しました。帰宅したとたん、侵入していた強盗にボールで襲われたのです。私は頭を12針縫い、妻は全身打撲で2週間入院しました。

その時は、生き延びることしか考えませんでした。ボールを奪って対抗しようとした。もみあいになって玄關先に逃れた時、ちょうど隣の車が帰ってきて、九死に一生を得ました。

この事件を通してしみじみ思ったことは「生死一如」、生きていくことは常に死と隣り合わせなんだということ、そして「縁起存在」、縁によつて殺されれば殺しもする、生きてもすれば死にもする、そういういのちを生きているのだということでした。

また、せつせと築いてきた自分の人生、家族、家、車、

アルバム、日記、そういうものが全部一瞬にしてセピア色になって遠のいて行きました。これで、自分の人生は終わったと思いました。我が物と言えようなのは、何もなかったのです。ボールの一撃は「持ったものの放せ！」の一喝でもありました。

聞き書き担当省感想

「出雲路晩寂先生から」むな

川島先生と再会して

牧本 和孝

川島先生に私をはじめ出会ったのは平成30年の蓮如上人御影道中の御下向の時、続けて昨年の御上落も一緒にした。

御下向に参加された時は、初めての長距離歩行

だったらしく、初日からいきなり両足の裏に大きなマメをこさえて大変辛そうであつた。それでも二百四十kmを完歩されたのである。翌年の御上落は慣れられたのか、マメも無かつたようだ。



由布岳でスーパーボランティアの尾畠さんと出会い、記念写真。

しい自己をあなたに気づかせてくるものは何か』と問われ、仏教の教えだと漠然と考えていたけど、私の生きているいのちそのものがむなしさを通していのちに帰れと呼びかけているんだと近頃思うようになります。とお話いただき、現代人（私）の抱えるニヒリズムの課題を超えていくヒントをいただきました。

釈和敬（渡辺 和義）

先生は日本百名山の登頂を成し遂げておられ、今回の来寺の折にも由布岳に登られるということ、我々四名も同行した。

先生は思春期の頃から人生に対して葛藤が始まり彷徨（さまよ）わられて行き着いた所が仏門の世界であつたと伺っている。

比べて小生は、今までも、今でも、ノホホンと生きており、浄土の道がいつ見えてくるのか危なっかしいものだ。

すぐには解らなくとも聞法に通つて内光が射してくればと願っている。

ご門徒さんこんにちは！ 第十八回

元気の秘訣

90才を過ぎてても毎日元気に旧サンリブ店の前にある父親の代から続く自転車販売店に出ておられる綱義さんを今回はお尋ねして、先ず元気の秘訣を聞いてみました。

綱義さんが教えてくれた秘訣は、「手足を使う。頭を使う。そして奥さんから貰った歌本で仕事の合間にお店の奥で歌うこと」だそうです。

その綱義さんはこの正月で92才になります。生まれは四日市で、誕生日は昭和4年1月1日、兄弟は5人兄弟だったそうですが、成人を迎えられたのは百才で亡くなった姉と77才で亡くなった弟の3人だそうです。

思い出話

綱義さんの少年時代は戦争中でした。旧制宇佐中学校に通っていた当時の勤労動員での思い出を話してくれました。一つはモッコを担いで、今でも残っている城井の掩体壕の

土運びをしたこと。二つ目は、糸口山にあった糸口工廠の防空壕から見た日本の飛行機が米軍のB29に体当たり攻撃をして、煙りを吐いて落ちるB29から米兵がパラシュートで脱出する様子を目撃したそうです。

綱義さんは終戦の前に学校

県下で最高齢の自転車屋さんです！

渡辺綱義さん（四日市）

を卒業し、無線講習所に入學したそうですが、終戦と同時に閉校となり、四日市の家に帰って来られました。しばらくして父親が病気で寝込んだため、21才の時に店を継ぎましたが、父親は綱義さんが32才の時に69才で亡くなりました。店を継いだ当初は、店の奥で休んでいる父親に指示を仰いでいたそうですが、直ぐに商売のコツをつかんだので店の経営を任せられました。

家業の自転車販売は、父親

が日露戦争後海軍を除隊し、北朝鮮で手広く自転車販売業をしていた伯父に呼ばれ、店を任せられるまでになったが、体をこわしたので日本に引き揚げ、院内町の三又に店を構えたのが始まりだそうです。

その後、父親は人の勧めで四日市に移り、今の場所に店を構えました。当時の店の様子は、旧四日市小学校の校歌にも歌われている「大正9年の陸軍大演習」の様子を写した四日市の街並みの写真に渡辺

自転車店の看板が写っているそうです。

家族に囲まれて

商売は順調で、綱義さんは26才で結婚しました。相手は二才年下の熊村出身の安倍トミさんです。トミさんは、お世話をする人から綱義さんとはとても働きものだと言われ、たので結婚したそうです。綱義さんは評判どおりでよく働き、お店も大きくなり、オートバイも扱うようになって耶

馬溪から山香一帯の県北代理店として手広く商売をするようになり、10号線沿いにもお店を出されました。

子どもも一男二女に恵まれ、長女は上矢部、二女も大分市に住んでいるそうです。共に薬剤師をしている末っ子の息子さん夫婦は隣に家を建てて住んでいます。

しかし、57年間連れ添った奥さんを10年ほど前に事故で



亡くされたので現在は一人で住んでいます。

毎日の生活は朝6時に起きて、仏様にお参りすると共に孫やひ孫を含めた家族の健康を神仏にお祈りします。そして両肩を回し、腰の伸展をするという自分で考案した体操をして、食事は隣に住む長男夫婦の家で食べるそうです。食事が済むと自宅に戻り、しばらくゆっくりして9時にお

人生の達人

店を開け、元気な顔を道行く人に見せてくれます。

面倒見が良く、正義感が強くきっちり筋を通す綱義さんはみんなから頼りにされ、小学校や中学校のPTA会長職などを13年間なされ、その間には小学校の管理棟建設に尽力したそうです。それ以外にも、民生委員を27年間なされ公私共に忙しく過ごされました。

そんな92年という人生を過ごされた綱義さんに人生訓を訊ねると「人の話を辛抱強く聞くこと。人に責任を問うよりも自分でやってみる。周りに無理強いをしないと必ず良い結果になるので無理強いはいはしない。人生で人に悪いことをすると必ず自分に返ってくる。最後は腹は立てない」と話してくれました。

四日市が賑やかだった昭和三十年、四十年代、四日市町内には自転車屋さんが六軒もあったそうです。今では二軒になってしまいましたが、どうぞいつまでも元氣でお店に出られて皆さんに元氣な姿を見せ続けて下さい。

（文責 渡辺 重昭）

お知らせ

勝福寺報恩講について

昨年の12月5日、常任委員会を開催し、今年の報恩講について話し合いをし、左記のように決定しました。

なお、事態は流動的なため、最終的な決定は1月10日過ぎに出す「報恩講御案内」でお知らせいたします。



＊新型コロナウイルスの流行状況が現在の（12月5日）のままの場合

感染対策をしっかりとつたうえで、「お斎」の取りやめなど、例年より、簡素化して行う。

おみがき・お華束つき・掃除
1月20日（水）午後1時
法要1月23日（土）昼・夜席
24日（日）昼席

講師 太田浩史先生
（富山県・大福寺住職）

お斎 取り止め

当番地区 なし（有志で行う）

御法礼 三千元

＊感染が今よりも拡大した時

おみがき等の準備は有志で簡素に行い、法要は24日（日）の昼席だけとし、参詣は自由、法話は住職が行う。御法礼の御依頼はしない。

＊感染が拡大し非常事態が出された時

おみがき等の準備も中止し、法要は24日（日）昼席だけ、総代代表が参詣して勤行を行う。御法礼の御依頼はしない。

響流句会

2019年5月に発足した響流句会も、はや16回を数えるまでになりました。ながねん俳句に親しんできた人と、五・七・五と指を数えながら句作りする初心者とが一緒になって、楽しい一時を過ごしています。皆さまも、いかがですか。ご参加をお待ちしています。

第十六回 響流句会



（2020年11月1日）

小若女弘子

一行の拍手歓声月出づる
お移りに菜園に走る秋なすび
楽しさの余韻や昨夜の観月会

佐藤麗子

老いし身に親の呼び声秋麗
峰々に雲行くままに岳紅葉

ミングナオ子ど図書館へ古着を発送

今年もミングナオ子ども図書館に古着を送ることが出来ました。今年は「手と手みらい hug キッチン」（子ども食堂）に参加された方々が提供してくださった幼児ものが多くありました。これからもよろしく願います。



法友と今宵かぎりの月見かな

藤谷純子

長者原老いのぬくもり枯尾花
山苞のきのこに映ゆる秋日かな
雲を出でて闇路を照らす月仰ぐ

藤谷知道

芒原一本道に影二つ

紅葉散るこの一年に満ち足りて
照る紅葉我なき天地の讃歌かな

本多加代子

穂芒の傾ぶきしまま風を待つ
星一つ寄りそふ青き後の月
闇を裂き湖を渡りし鹿の声

松尾由美子

秋の山十二単衣を纏うごと
十三夜指に輝くエンゲージ
三股山夕日に映えてねむにつく

吉武康子

旧友の酒に誘はれ片見月
待ちわびし荅鹿の子に藤袴
薯蕷の折れて白さを惜しみけり



勝福寺ホーム
ページ

四日市別院境内に 子どもたちの歓声 溢れる！

芋掘り & 子ども食堂

十一月七日土曜日、あいにくの天気の中かで「みんなのおうち」と「手と手みらいhugキッチン」のコラボイベントとして、芋掘りが行われました。お世話をされた大西昌子さんからの報告です。

朝の9時に勝福寺に集合。畑班、台所班、焼き芋班に分かれてそれぞれが作業開始です。

西園るみさんチームは、畑までゴミ拾いをしながら歩いていってくれました。

土が思った以上に固いので、小さい子達は大人の力を借りながら一生懸命芋を掘りました。

勝福寺の台所では、お母さん達を中心に、去年も手伝ってくれた宇佐産業科学高校の女子も交えて、愛情たっぷりの昼食作りが進んでいます。

境内では、松本順さんと牧本和孝さんが相変わらずの手際のできる手



焼き芋をたくさん焼いてくれました。10時半ごろに芋ほり終了。畑からお腹をすかせて戻ってきたちびっ子達が、大喜びで焼き芋を食べていました。

さあ、お昼ご飯を食べようとした矢先、雨がぽつぽつ降り出してこれはどうしようかと考えあぐねていたなら、知子さんから「山門の戸を開けるからその下で食べたらいよいよ」という救いの声。おかげで雨にぬれることなく、皆一緒に楽しく食べることが出来ました。



当日のメニューは、カレーとシ

モン芋のスープ、からあげと松本順さんからいただいたホウレンソウでおひたしを作ってもらいました。他にも「くろねこ」さんのおでんの差し入れや、安藤さんの紙トンボや塩田君のバルーン、かつ

ちゃんと映子さんのウクレレライブなど、盛りだくさんのイベントで、15時過ぎまで子ども達もよく遊んで終了しました。

嬉しいことに年々参加者が増えて、今回は80名以上の方々に携わっていただきました。そして、みなさんが参加者であり協力者でもあったイベントでした。

今回、ベトナム人の方も参加していたので、とう

とう多国籍で多様性のある活動になってきたことが嬉しかったです。

毎回、快く台所やお寺を使わせていただき、皆さんの癒しの場になっっている勝福寺。住職の知道さんや坊守の純子さんには感謝の言葉しかありません。

ご門徒の松本順さんや牧本和孝さんにはいつも多大なご

協力をいただき、美味しい焼き芋をつくっていただき、皆さんに大好評です。相変わらず段取り下手な私はみんなに助けられながらの活動ですが、こうやってみんなが笑顔で集まれる一日があることがありがたいなと思いつながら、このご縁を大切に、これからも続けていきたいと思っています。



真宗門徒の豆知識

今、コロナウイルスの感染をおそれながらも、各寺院でいろいろな工夫をしつつ報恩講が勤められています。

報恩講といえ、お莊嚴

(仏具のおみがき・お華束つき・お花立て)や、お斎作り等、皆で協力しあつて法要当日をお迎えする大事な仏事です。

報恩講が近づいています！

このお勤まりに会うことで、皆と一緒に、親鸞聖人が明らかにしてくださった本願念仏の教えを聞かせていただき、この人生を生きる智慧と力と愛を取り戻すことができます。

この世を生きる私達は多くのご恩をいただいて生きています。この身を生んで育ててくださった親の御恩、生きることを与えてくださる衆生(動植物や人間社会)の御恩、天地自然の御恩、そして仏様の御恩。無量のご恩の中に生

かされているのに、文句の方が先に出る私は、蓮如上人から「御恩を知らざるものは、まことに木石にことならんのか」と、「人に非ず」と歎かれています。

わたしやあさまし
親のご恩がよるこばれん
親のご恩がよるこばれん
なら 放っておけよ
凡夫がよろこぶご恩でない
ご恩うれしや なむあみだ
ぶつ

(浅原才市)

才市さんの言う「親のご恩」とは阿弥陀仏のご恩でしょう。ご恩を頂いて生きているのに気づけないでいる私のための報恩講です。ご恩が知れるとストレスがなくなり、生きることがもつと明るく充実してくるし、人々と楽にお付き合いができるようになるでしょう。

「私自身のための報恩講でした」と言えるような報恩講になりますように。

(藤谷純子)



生活の知恵袋

膝痛で、整形外科でレントゲンを撮ってもらったら「別に異常なし」とのこと。しかし痛みは日に日にひどくなり歩けなくなつたので、金田鍼灸センターで診てもらったら「筋肉が萎縮し、体温が低く、代謝がとっても悪い」との診断。

あたたかな東洋医学
— 鍼治療で膝痛を治す —

それで、月に3回ほど治療に通いだしたのですが、突然、使える足もガクツと鈍い音を立てて崩れ落ち、全く歩けなくなりました。

先生は「月に三回くらいでは老いと足の酷使に治療は追いつけません。これから毎日来てください。薄紙を一枚ずつ剥がすようにしか痛みは取れませんよ」とおっしゃられました。私は先生におまかせしようと心に決め、それから送り迎えをして頂きながら治療に通いました。

待合室には暁鳥敏先生の「母の歌」がかけてあり、誰も知らないというので、私が歌いましたら、居合わせた92歳のご婦人が、仏教婦人会の役をながいことしていたことや今も野菜を作つて出荷していることを話してくれ、最後に「お友だちになつてね」と手を握り合いました。

2年ほど経ち、いつもグループで治療にくるご婦人たちが「あんだ、松葉杖つきよつたけど、ちゃんと歩けるようになって、よかったなあ」とにぎやかに喜んでくれました。また、先生から「香田さん、恩徳讃の(骨を砕きても謝すべし)とは、どういうこと？」と尋ねられました。よくわかりませんが、「身を粉にしたリ、骨を砕いてくださったているのは仏さまのご苦労だと思ひます」と応えましたが、大きな宿題をいただいたことです。

※暁鳥敏

(香田紀子)

一八七七〜一九五四年
真宗大谷派の僧侶

一月行事予定

1日(金) 修正会
4日(月) たんぽぽ子ども会

5日(火) 響流句会

9日(土) はじめの一步

20日(水) お華束つき・お磨き・お掃除

21日(木) お華束盛り・お花立て

23日(土) 24日(日)

勝福寺報恩講

二月行事予定

2月1日(月) 響流句会

2月13日(土) はじめの一步

2月28日(日) 御名を聞く会

講師 大江憲成先生

*詳しい時間等はお寺にお問い合せください。

編集後記

渡辺綱義さんのお話を聞きながら、とても元気でまもなく92才になる方だと思えませんでした。その秘訣はやはり気持ちに張りがあることでしょうね。とても良い刺激を受けました。有難うございました。

渡辺重昭